

衛生専門課程 美容学科 美容師コース カリキュラム編成表

科目の区分	必修・選択の別	授業科目	第1学年	第2学年	授業時数合計	単位数	実務経験のある教員等による授業
			年間授業時数	年間授業時数			
専門科目	必修	関係法規・制度（講義）	0	30	30	1	○
		衛生管理（講義）	60	30	90	3	○
		保健（講義）	60	30	90	3	○
		化粧品化学（講義）	30	30	60	2	○
		文化論（講義）	30	30	60	2	○
		美容技術理論（講義）	90	60	150	5	○
		運営管理（講義）	0	30	30	1	○
		美容実習（実技）	405	495	900	30	○
	選択必修	美容応対マナー（演習）	30	30	60	2	○
		メイクアップ（実技）	60	0	60	2	○
		美容デッサン（実技）	60	0	60	2	○
		総合美容（講義）	30	60	90	3	○
		ヘアセット（実技）	60	30	90	3	○
		サロンワーク実習（実技）	90	150	240	8	○
必修科目授業時数及び単位数			675	735	1,410	47	
選択必修科目授業時数及び単位数			330	270	600	20	
卒業に必要な総授業時数及び単位数			1,005	1,005	2,010	67	
実務経験のある教員等による授業科目授業時数合計			1,005	1,005	2,010		

衛生専門課程 美容学科 総合美容コース カリキュラム編成表

科目の区分	必修・選択の別	授 業 科 目	第 1 学 年	第 2 学 年	授業時数合計	単位数	実務経験のある 教員等による 授業
			年間授業時数	年間授業時数			
専 門 科 目	必 修	関係法規・制度（講義）	0	30	30	1	○
		衛生管理（講義）	60	30	90	3	○
		保健（講義）	60	30	90	3	○
		化粧品化学（講義）	30	30	60	2	○
		文化論（講義）	30	30	60	2	○
		美容技術理論（講義）	90	60	150	5	○
		運営管理（講義）	0	30	30	1	○
		美容実習（実技）	405	495	900	30	○
	選 択 必 修	美容対応マナー（演習）	30	30	60	2	○
		メイクアップ（実技）	60	0	60	2	○
		美容デッサン（実技）	60	0	60	2	○
		総合美容（講義）	30	60	90	3	○
		ヘアセット（実技）	60	30	90	3	○
		ネイルアート（実技）	60	60	120	4	○
		まつ毛エクステンション（実技）	0	30	30	1	○
		エステ（実技）	0	30	30	1	○
		着付け（実技）	30	30	60	2	○
必修科目授業時数及び単位数			675	735	1,410	47	
選択必修科目授業時数及び単位数			330	270	600	20	
卒業に必要な総授業時数及び単位数			1,005	1,005	2,010	67	
実務経験のある教員等による授業科目授業時数合計			1,005	1,005	2,010		

<b>科目名</b>	<b>関係法規・制度</b>	<b>講義</b>
------------	----------------	-----------

<b>担当教員名</b>	<b>時間数</b>	<b>単位数</b>	<b>必修・選択</b>	<b>開講年次／回数</b>
小泉 泰久 保健所衛生課勤務	30時間	1	必修	2年 50分×30回

<b>講義目的</b>
美容師資格を目指す者にたいして、美容業が美容師法によって確立され、多くの義務を伴うものであることを自覚させる授業、併せて関連法規を学ぶ。

<b>講義方法</b>
教科書(関係法規・制度)、美容師法関係法令集を中心に講義形式で進める。

<b>試験方法・成績評価方法</b>
定期試験の点数を中心に、出席状況等を含め評価する。

<b>授業内容</b>						
回	主題	内容	回	主題	内容	
1	法制度の概要	・法の形式	1	理容師法・美容師法	理容師・美容師に関する規定	
2	法制度の概要	・復習	2			
3	衛生行政の概要	・衛生行政の意義と歴史	3			
4	衛生行政の概要	・衛生行政の分類	4			
5	衛生行政の概要	・衛生行政を担う行政機関	5			まとめの問題
6	衛生行政の概要	・法制度	6			
7	理容師法・美容師法	・目的	7		施設に関する規定	
8		・美容師法の用語の定義	8			
9		・美容師に関する規定	9			
10		・試験、免許登録	10			違反者等の関する行政処分、罰則
11		・美容師免許のしくみ、手続き	11			関連法規
12		・理容師、美容師の義務	12			
13	まとめ	試験範囲の復習	13	まとめ	国家試験の過去問題演習	
14			14			
15			15			

・1年生、2年生とも教科書で上記授業、練習問題も実施する。  
 ・2年生は、授業に、“業務に従事する美容師の義務”を講義、実技の授業に併せ身につけるよう指導。  
 また、授業ごとに具体例を示すとともに練習問題を出題し、解説しながら授業内容を確認する。

<b>テキスト</b>
・関係法規・制度(日本理容美容教育センター) ・美容師法関係法令集(日本理容美容教育センター)

<b>参考書・その他</b>
・富山県美容師法施行条例(コピー配布) ・富山県美容師法施行規則(コピー配布) ・富山市美容師法施行条例(コピー配布) ・富山市美容師法施行細則(コピー配布)

<b>科目名</b>	<b>衛生管理</b>	<b>講義</b>
------------	-------------	-----------

<b>担当教員名</b>	<b>時間数</b>	<b>単位数</b>	<b>必修・選択</b>	<b>開講年次／回数</b>
木村 由佳	90時間	3	必修	1年 50分×60回
美容師				2年 50分×30回

<b>講義目的</b>
公衆衛生の意義と本質を明らかにし、美容師が公衆衛生の維持と増進について重大な責務を担わなければならない理由を十分に理解させ、美容業務での関連を具体化させる。

<b>講義方法</b>
教科書、問題集を中心に講義形式で授業を進め、消毒法の希釈方法は実演で行う。

<b>試験方法・成績評価方法</b>
定期試験の点数を中心に、出席状況、授業態度も含め評価する。

<b>授業内容</b>					
1年次			2年次		
回	主題	内容	回	主題	内容
1～13	1編 公衆衛生	・公衆衛生とは ・保健の仕組み	1～14	4編 衛生管理技術	・消毒法総論 ・消毒法実習 ・消毒法各論
14～26	2編 環境衛生	・環境衛生とは ・上水道の役割を知る ・空気と健康の関係 ・その他	15	まとめ学習	
27～30	まとめ学習		16～21	4編 衛生管理技術	・消毒法実習
31～55	3編 感染症	・感染症の体系を知る ・感染症の症状、感染源、 感染経路や予防方法を認識 ・その他		5編 衛生管理の実践例	・理容所および美容所における 衛生管理要領 ・理・美容所の自主管理点検表
56～60	まとめ学習		22～30	まとめ学習	

<b>テキスト</b>
衛生管理 （社団法人 日本理容美容教育センター）

<b>参考書・その他</b>

<b>科目名</b>	<b>保健</b>	<b>講義</b>
------------	-----------	-----------

<b>担当教員名</b>	<b>時間数</b>	<b>単位数</b>	<b>必修・選択</b>	<b>開講年次／回数</b>
福澤 えみ子	90時間	3	必修	1年 50分×60回
美容師				2年 50分×30回

<b>講義目的</b>
美容師は、頭や顔そして全身の、人間の美と健康に携わる保健衛生の分野の職業なので、一般の人以上に解剖学や生理学に関する知識を習得することによって、美容業務を安全かつ効果的に行うことを目的とする。

<b>講義方法</b>
教科書(理容・美容保健)を中心に講義形式で行う。

<b>試験方法・成績評価方法</b>
定期試験も点数を中心に、出席状況も含め評価する。

<b>授業内容</b>					
<b>1年次</b>			<b>2年次</b>		
回	主題	内容	回	主題	内容
1～4	第1編 人体の構造及び機能	・第1章 頭部、顔部、頸部の体表解剖学	1～6	第2編 皮膚科学	・第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健
5～8		・第2章 骨格器系			
9～12		・第3章 筋系	7～18		・第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患
13～18		・第4章 神経系			
19～22		・第5章 感覚器系	19～24		まとめ
23～26		・第6章 血液・循環器系			
27～30		・第7章 呼吸器系			
31～34		・第8章 消化器系			
35～40	まとめ				
41～44	第2編 皮膚科学	・第1章 皮膚の構造	25～30	試験対策	
45～48		・第2章 皮膚付属器官の構造			
49～52		・第3章 皮膚の循環器系と神経系			
53～60		・第4章 皮膚の皮膚付属器官の生理機能			

<b>テキスト</b>
理容・美容 保健( (社)日本理容美容教育センター)

<b>科目名</b>	<b>化粧品化学</b>	<b>講義</b>
------------	--------------	-----------

<b>担当教員名</b>	<b>時間数</b>	<b>単位数</b>	<b>必修・選択</b>	<b>開講年次／回数</b>
山本 葉子	60時間	2	必修	1年 50分×30回
薬剤師				2年 50分×30回

<b>講義目的</b>
美容の施術の際に使用する化粧品を正しく取り扱うために必要な知識を学ぶ

<b>講義方法</b>
教科書、問題集を中心に講義形式で進める

<b>試験方法・成績評価方法</b>
定期試験の点数を中心に、出席状況、授業態度も含め評価する。

<b>授業内容</b>					
1年次			2年次		
回	主題	内容	回	主題	内容
1～15	化粧品総論 化粧品を使用する際に気をつけるべきこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化粧品とは</li> <li>・化粧品と造形</li> <li>・化粧品の効果と使用プロセス</li> <li>・化粧品の使用による症状</li> <li>・化粧品の定義と法規制</li> <li>・化粧品の安全性と安定性</li> </ul>	1～9	スキンケア製品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化粧品の効果と使用プロセス</li> <li>・クレンジング用化粧品</li> <li>・コンディショニング用化粧品</li> <li>・トリートメント用化粧品</li> <li>・その他</li> </ul>
			11～15	メイクアップ製品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メイクアップ製品の種類と剤形</li> <li>・ベースメイクアップ化粧品</li> <li>・ポイントメイクアップ化粧品</li> <li>・アイメイクアップ製品</li> <li>・まつ毛ケア製品</li> <li>・ネイルメイクケア製品</li> <li>・ネイルケア製品</li> </ul>
16～30	化粧品の成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化粧品の成り立ち</li> <li>・水と親水性溶媒</li> <li>・油性原料</li> <li>・界面活性剤</li> <li>・高分子化合物</li> <li>・色材</li> <li>・香料</li> <li>・製品を安定させる配合原料</li> <li>・その他の機能性配合原料</li> <li>・雑貨原料</li> </ul>	16～27	ヘアケア、ヘアメイアップ及びスカルプケア製品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘアクレンジング用化粧品</li> <li>・ヘアコンディショニング用化粧品</li> <li>・ヘアスタイリング料</li> <li>・パーマ剤</li> <li>・ヘアカラー製品</li> <li>・スカルプケア製品</li> </ul>
			28～30	演習問題	

1年次は講義中心、2年次は講義後、プリントで演習問題

<b>テキスト</b>
化粧品化学テキスト(社団法人 日本理容美容教育センター)

<b>参考書・その他</b>

<b>科目名</b>	<b>文化論</b>	<b>講義</b>
------------	------------	-----------

<b>担当教員名</b>	<b>時間数</b>	<b>単位数</b>	<b>必修・選択</b>	<b>開講年次／回数</b>
大橋 育世	60時間	2	必修	1年 50分×30回
美容師				2年 50分×30回

<b>講義目的</b>
流行と社会背景や時代の要請の結びつきを学ぶ。

<b>講義方法</b>
教科書、問題集を中心に講義形式で進める

<b>試験方法・成績評価方法</b>
定期試験の点数を中心に、出席状況、授業態度も含め評価する。

<b>授業内容</b>					
1年次			2年次		
回数	主題	内容	回数	主題	内容
1～4	総論 日本の理容業と美容業の歴史	・総論 ・理容業・美容業の発生 ・近代、現在の理容業・美容業	1～7	ファッション文化史 西洋編	・古代文化 ・16世紀～19世紀のファッションを学ぶ
5～10	ファッション文化史 日本編	・この時代に美を考える (縄文～戦国末・安土桃山時代)	8～11	まとめ	
11	前期まとめ		12～18	ファッション文化史 西洋編	・現在(1910年代～2010年)の ファッションを学ぶ
15～25	ファッション文化史 日本編	・この時代に美を考える (江戸時代～現代まで)	19～23	まとめ	
26～27	後期まとめ		24～30	国家試験対策まとめ	
28～30	1年次総まとめ				
1年次は講義中心、2年次は講義後、プリントで演習問題					

<b>テキスト</b>
文化論(社団法人 日本理容美容教育センター)

<b>参考書・その他</b>

<b>科目名</b>	<b>美容技術理論</b>	<b>講義</b>
------------	---------------	-----------

担当教員名		時間数	単位数	必修・選択	開講年次/回数
木村 由佳	美容師	150時間	5	必修	1年 50分×90回
堂谷 陽子	美容師				
大橋 育世	美容師				2年 50分×60回
土肥 久美	美容師				

講義目的
美容技術の理論的根拠を学び、習得することで技術の習得を容易にする。 また理論だけでなく、美容師としての心構え等も取得させる。

講義方法
教科書、問題集を中心に講義形式で進める

試験方法・成績評価方法
定期試験の点数を中心に、出席状況、授業態度も含め評価する。

授業内容					
1年次			2年次		
回	主題	内容	回	主題	内容
1～4	序章	・美容技術理論を学ぶにあたって ・美容理論と美容技術 ・美容技術における作業姿勢 ・美容技術に必要な人体各部の名称	1～9	エステティック	・エステティック概論 ・皮膚の構造と理解 ・カウンセリング ・その他
5～12	美容用具	・美容技術における用具 ・コーム ・ブラシ ・シザーズ ・レザー その他	10～18	ネイル技術	・ネイル技術概論 ・種類 ・手と足のマッサージ ・爪の構造と機能 ・その他
13～23	シャンプーイング	・シャンプーイング理論 ・サイドシャンプー、バックシャンプー ・リンス、コンディショナー その他	19～32	メイクアップ	・メイクアップ概論 ・皮膚の生理と構造 ・メイクアップの道具 ・ベースメイクアップ ・その他
24～29	ヘアデザイン	・美容とデザイン			
30～40	ヘアカットイング	・ヘアカットイングとは ・シザーズとレザーの扱い方 ・美容刃物 ・シザーによるカット技法 その他まとめ	33～38	日本髪	・日本髪の由来 ・各部の名称 ・装飾品 ・その他
41～45	確認テスト		39～55	着付けの理論と技術	・着付けの理論と技術 ・着物と季節 ・帯 ・小物 ・その他
46～54	パーマメントウェーピング	・ヘアカットイングとは ・シザーズとレザーの扱い方 ・美容刃物 ・シザーによるカット技法 その他まとめ	56～57	まとめ	
46～77	ヘアセッティング	・ヘアセッティングとは ・ヘアパーティング ・ヘアシェーピング ・ヘアカーリング その他、まとめ復習	58～60	模擬テスト	
78～85	ヘアカラーリング	・ヘアカラーリング理論 ・ヘアカラーのタイプ別特長 ・色の基本 その他			
86～90	まとめ	・演習問題			

テキスト
美容技術理論1、2(社団法人 日本理容美容教育センター)

参考書・その他
ワークブック(社団法人 日本理容美容教育センター)

<b>科目名</b>	<b>運営管理</b>	<b>講義</b>
------------	-------------	-----------

<b>担当教員名</b>	<b>時間数</b>	<b>単位数</b>	<b>必修・選択</b>	<b>開講年次／回数</b>
福澤 えみ子 美容師	30時間	1	必修	2年 50分×30回

<b>講義目的</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営管理の基本的事項を学習することによって、美容業における科学的な経営管理手法の重要性を認識させ、美容所の経営に役立たせる。</li> <li>・美容業において、適切な接客態度がいかに重要であるかを自覚させるとともに、消費者対応の基本を学ばせ、実践する能力を身につけさせる。</li> <li>・社会人としての、マナー及び仕事の取り組み方を具体的に学ぶことによって、学生が企業人になったときに対応できるビジネス能力の基本を身につけさせる。</li> </ul>

<b>講義方法</b>
<p>テキストを中心にした内容の選択式問題を作成し、下記のプロセスで講義を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1ステップ <ul style="list-style-type: none"> <li>1、項目概要を示す。</li> <li>2、テキストを読ませる。</li> <li>3、問題を解答させる。</li> </ul> </li> <li>・第2ステップ <ul style="list-style-type: none"> <li>1、解答を発表させる。</li> <li>2、正誤を示し、説明及び関連した内容の補足により理解が深まるようにする。</li> </ul> </li> </ul>

<b>試験方法・成績評価方法</b>
<p>定期試験の点数より決定する。  なお、評価基準を作成し認められることを前提に、定期試験の点数に加え、出席状況、テキスト等の授業準備状況も評価したいとの意向がある</p>

<b>授業内容</b>						
回	主題	回	主題	回	主題	
1	第1編 経営者の視点	1	第3編 顧客のために	1	第1章 サービス・デザイン	
2		第1章 経営とは・経営者とは				2
3						3
4		第2章 理容業・美容業の経営について				4
5						5
6		第3章 資金の管理				6
7						7
8	第2編 人という資源 従業員としての視点	8	まとめ	8	第3章 サービスにおける人の役割	
9		第1章 人という資源				9
10						10
11		第2章 健康・安全な職場環境の実現				11
12						12
13		第3章 従業員としての視点から				13
14						14
15						15

<b>テキスト</b>
美容運営管理(社団法人 日本理容美容教育センター)

<b>参考書・その他</b>

<b>科目名</b>	<b>美容実習</b>	<b>実技</b>
------------	-------------	-----------

担当教員名		時間数	単位数	必修・選択	開講年次
木村 由佳	美容師	900時間	30	必修	1年
堂谷 陽子	美容師				2年
大橋 育世	美容師				
土肥 久美	美容師				

講義目的
美容師資格を目指す者に対し、基礎知識、実技を身に付ける。

講義方法
教科書を中心に実技形式で進める

試験方法・成績評価方法
実技の試験を行い仕上がり进行评估

授業内容					
1年次			2年次		
主題	内容	時間	主題	内容	時間
1章 シャンプーイング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クロス掛け</li> <li>・ブラッシング</li> <li>・すすぎ</li> <li>・シャンプーイング</li> <li>・リンス</li> <li>・タオルドライとターバン (サイドシャンプー)</li> </ul>	10	6章 エステティック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エステティック部品類</li> <li>・フェイシャル及びデコルテマッサージの一例</li> <li>・背中のマッサージ</li> <li>・フェイシャルパックとマスク</li> </ul>	15
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すすぎ</li> <li>・シャンプー</li> <li>・リンス</li> <li>・タオルドライとターバン (バック)</li> <li>・トリートメント</li> </ul>		7章 ネイル技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネイルケア</li> <li>・アーティフィシャルネイル</li> <li>・ネイルアート</li> <li>・手と足のマッサージ</li> </ul>	6
2章 カット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワンレングス</li> <li>・グラデーション</li> <li>・レイヤーカット</li> <li>・セイルレングス</li> <li>・レザー</li> </ul>	46	8章 メイクアップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキンケア</li> <li>・ベースメイク</li> <li>・アイメイク</li> <li>・アイブロウメイク</li> <li>・リップメイク</li> <li>・ブラッシュオンメイク</li> <li>・一人の顔から5つの表情を引き出す</li> </ul>	20
3章 パーマネントウェービング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロッキング</li> <li>・ワンディング</li> <li>・ワンディングのバリエーション</li> </ul>	175	9章 着付け技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留袖</li> <li>・振袖</li> <li>・男子礼装羽織、袴</li> <li>・女子袴</li> <li>・打掛</li> <li>・伝統的な花嫁化粧</li> </ul>	15
4章 ヘアセットイング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘアカーリング</li> <li>・ローラーカーリング</li> <li>・ブロードラスタイリング</li> <li>・アイロンセットイング</li> <li>・アップスタイル</li> <li>・ヘアウエーピング</li> </ul>	165	試験対策	・レイヤーカット	35
				・デザイン巻き	48
5章 ヘアカラーリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・酸化染毛剤</li> <li>・酸性染毛剤</li> <li>・塗布技術の色々</li> </ul>	9		・オールウェーブセットイング	36
				<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンテスト対策</li> <li>・国家試験対策</li> </ul>	320
		<b>405</b>			<b>495</b>

テキスト
美容技術理論2 美容実習2(社団法人 日本理容美容教育センター) 美容師実技試験課題「技術の解説」(公益社団法人理容師美容師試験研修センター)

参考書・その他

<b>科目名</b>	<b>美容応対マナー</b>	<b>演習</b>
------------	----------------	-----------

<b>担当教員名</b>	<b>時間数</b>	<b>単位数</b>	<b>必修・選択</b>	<b>開講年次／回数</b>
境井 智子	60時間	2	選択	1年 50分×30回
企業マナー講師				2年 50分×30回

<b>講義目的</b>
現代、美容所で求められるのは優秀な技術だけでなく、お客様を満足させることである。そのための重要な要素として接客マナーを学び、お客様と接するにあたってこれだけは備えておきたいマナーを理解し、習得する。

<b>講義方法</b>
1年次、2年次ともに教科書に基づき、講義、演習形式で行う。

<b>試験方法・成績評価方法</b>
定期筆記試験の点数を中心に、出席状況、授業態度も含め評価する。

<b>授業内容</b>					
1年次			2年次		
回	主題	内容	回	主題	内容
1	接客の基本	・接客とは ・接客の5つのポイント	1～7	就職活動指導	・履歴書、封筒の書き方 ・面接時の動作(ロールプレイング)
2～3	感じの良い挨拶	・挨拶のポイントを考える ・感じの良い「いらっしゃいませ」実践 ・お客様の出迎え(ロールプレイング)	8～11	サービススタッフの資質・専門知識	・サービスの定義、機能、種類について
4～5	受付のしかた	・受付時の事例(ロールプレイング)	12～14	一般常識	・日本の節句、年中行事 ・練習問題
6	誘導のしかた	・ポイント解説(ロールプレイング)	15～19	サービス接客検定対策	・問題を考える ・解説
7	施術と接待	・タオルとクロスの付け方(ロールプレイング)			
8～9	茶菓接待	・お茶、コーヒー、ジュースの出し方 ・席次	20	検定解答	
10～11	正しい敬語使い	・プリント	21～24	店舗運営	・お客様対応のモットー ・予約～お見送りまで(ロールプレイング) ・対応チェック
12	会話のポイント	・話す時のポイント ・聞くときのポイント			
13～14	会計時のポイント	・会計時のポイント(ケースワーク) (ロールプレイング)	25	実力テスト	・電話対応 ・店舗対応
15	前期の総まとめ	・受付 ・会計	26	指名されるプロとなるための条件	・プロとして守ること
16～17	サービス接客検定	・過去問題	27～28	お客様に合わせた提案	・仕事の進め方 ・ケースワーク
18～21	アクシデント対応	・アクシデント時の対応のポイント			
22～27	電話対応	・予約電話のフォーマット作成(ロールプレイング) ・ポイント解説	29	レポート作成	・どんな美容師になりたいか
28	実力テスト		30	まとめ	・自身の考え
29	自分の長所を考える	・自己分析			
30	まとめ	・一般常識			
1年次は講師によるデモンストレーション後、相モデルによる演習					

<b>テキスト</b>
ケースで学ぶ理美容業の接客マナー サービス接客検定問題集1、2級 サービス接客検定問題集3級

<b>参考書・その他</b>

<b>科目名</b>	<b>メイクアップ</b>	<b>実技</b>
------------	---------------	-----------

担当教員名		時間数	単位数	必修・選択	開講年次／回数
須藤 志津子	ビューティーアドバイザー	60時間	2	選択	1年 50分×60回
大橋 育世	美容師				
土肥 久美	美容師				

講義目的
美容師資格を目指す者に対し、ベーシックメイクアップから応用テクニック、カウンセリングなど、どんなニーズにも対応できるメイクアップを学ばせ、美容師としての技術を身につける。

講義方法
教科書(美容技術理論2、美容実習2)を中心に講義、実技形式で進める。 オリジナルテキストを中心に実技形式で進める。

試験方法・成績評価方法
実技試験の点数を中心に、出席状況、授業態度、宿題提出状況、宿題の出来栄などで評価する。

授業内容		
回	主題	内容
1	自己紹介、メイクアイテム紹介、使い方の説明	
2	スキンケア～ベースメイクレクチャー	・人の肌にさわることに慣れる
3	スキンケア・ベースメイク(実践)	・コンシーラー、コントロールカラー、おしろい
4	アイメイク	・アイカラー、アイライナーペンシル、リキッド
5	アイメイク	・アイカラー、アイライナー復習&マスカラ
6	アイブロウ	・ペンシル&シャドウ
7	フィニッシュメイクレクチャー(相モデル練習)	・チーク&リップ
8	立体感づくり	・ハイライト&シャドウ
9	前期の総復習	
10	テスト(50分)	
11	古いメイク	
12	メイク接客	・次回から常にカウンセリングをしていく
13	リキッドファンデーション(ブラシ使用)	・つや肌メイク
14	フレッシュ・キュート・エレガント・クール	
15	着物メイク	
16	パーティーメイク	
17	テスト練習	・お客様の要望に合わせてメイク
18	テスト練習	・お客様の要望に合わせてメイク
19	テスト	
20	遊びメイク	・実践してみたいメイク

※1回の授業を3時間とし、上記以外に宿題の確認、前回の復習、講師によるデモンストレーション後、実習(相モデル)

テキスト
美容技術理論2(日本理容美容教育センター)

参考書・その他
オリジナルテキストを配布

<b>科目名</b>	<b>美容デッサン</b>	<b>実技</b>
------------	---------------	-----------

<b>担当教員名</b>	<b>時間数</b>	<b>単位数</b>	<b>必修・選択</b>	<b>開講年次／回数</b>
松本 江理子 イラストレーター	60時間	2	選択	1年 50分×60回

<b>講義目的</b>
美容師を志すものとしてヘアデザインの全体像を想像し、デッサンを起こし、完成度を高めていく。また、ベースとなる基本的な、顔のプロポーション、バランスを理解する。

<b>講義方法</b>
教科書を中心的に講義、実技形式で進める。

<b>試験方法・成績評価方法</b>
定期筆記、実技試験の点数を中心に、出席状況、授業態度も含め評価する。

<b>授業内容</b>					
回	主題	内容	回	主題	内容
1	省略的な描き方	1 ヘアデッサンについて 2 ウォーミングアップ線の練習 3 顔パーツ・目と眉の描き方	1	写実的な描き方	6 斜め向きの顔をヘアを描く
2		5 顔のプロポーション・正面向 4 顔パーツ・鼻と口の描き方	2		
3		6 省略的な描き方・線の練習 7 顔を描く順序・正面向	3		
4		7 顔を描く順序・正面向 8 顔のプロポーション・斜め向き	4	作品制作	7 横向きの顔とヘアを描く
5		9 顔を描く順序・斜め向き	5		
6		10 顔のプロポーション・横向き	6		
7		11 顔を描く順序・斜め向き 12 写真を見て描く・スタイル分析	7		
8		13 写真を見て省略的に描く	8		
9	写実的な描き方	1 写実的な描き方濃淡の練習	9		
10		2 顔のパーツの描き方	10		
11		3 ヘアの描き方 4 ヘアの描き方の注意点	11		
12		5 正面向きの顔とヘアを描く	12		
13			13		
14		6 斜め向きの顔をヘアを描く	14		
15	前期テスト	・筆記 ・実技	15		・B3イラストボード ・コンテスト作品

※1回の授業を2時間とする。

<b>テキスト</b>
HAIR DRAWING

<b>参考書・その他</b>

<b>科目名</b>	<b>総合美容</b>	<b>講義</b>
------------	-------------	-----------

担当教員名		時間数	単位数	必修・選択	開講年次
木村 由佳	美容師	90	3	選択	1年 2年
堂谷 陽子	美容師				
土肥 久美	美容師				

講義目的
必修科目において習得した基礎的な専門知識を基に、さらに実用的な知識と技術を身につけさせる。また、美容師免許の取得に向けて学生の理解の向上を目指す。

講義方法
教科書を中心に、実習・講義で進める。

試験方法・成績評価方法
出席状況、提出物、授業への取り組み姿勢も含め評価する。

授業内容			
1年次		2年次	
内容	時間	内容	時間
1 ヘアショーの企画運営	30	2 髪型、メイク、衣装	21
		3 音響証明、ウォーキング	3
		4 エクステ理論	3
		5 新技術の習得	3
		6 問題の傾向と対策	30
			60

テキスト
ワークブック

参考書・その他
ヘア雑誌、メイク雑誌、ファッション雑誌 過去問題集

<b>科目名</b>	<b>ヘアセット</b>	<b>実技</b>
------------	--------------	-----------

担当教員名		時間数	単位数	必修・選択	開講年次／回数
木村 由佳	美容師	90	3	選択	1年 50分×60回 2年 50分×30回
堂谷 陽子	美容師				
土肥 久美	美容師				

講義目的
ヘアセットの基礎技術・基礎知識を身につける。様々なジャンルにも対応できるよう技術の向上を計る。

講義方法
資料(雑誌等)からイメージを学び作品を創作する。

試験方法・成績評価方法
自由製作に点数を付け、評価する。

授業内容					
1年次			2年次		
回	主題	内容	回	主題	内容
1～6	1 授業方針 2 ピンやブラシ、他道具の用途と基礎技術		1～15	7 アレンジ	・相モデルで輪郭や髪の長さに応じたアレンジ
7～21	3 アップスタイル	・基本、まとめ髪	16～30	8 作品制作	・個人のテーマの自由制作
22～36	4 アップスタイル	・中級編・逆毛			
37～48	5 アップスタイル	・上級編・艶			
48～60	6 毛先の散らし方	・高さ ・ボリューム			

テキスト
BASIC OF BASIC(女性モード社)

参考書・その他
ヘア雑誌、メイク雑誌、ファッション雑誌

科目名	サロンワーク実習	美容師コース	実技
-----	----------	--------	----

担当教員名		時間数	単位数	必修・選択	開講年次／回数
木村 由佳	美容師	240時間	8	選択	1年 2年
堂谷 陽子	美容師				
土肥 久美	美容師				

講義目的
美容師資格を目指す者に対し、基礎知識、実技を身に付ける

講義方法
教科書を中心に実技形式で進める

試験方法・成績評価方法
実技の試験を行い仕上がりを評価

授業内容					
1年次			2年次		
主題	内容	時間	主題	内容	時間
シャンプー	<ul style="list-style-type: none"> <li>セット面からシャンプー台まで</li> <li>気持ちいいシャンプーをするためのポイント</li> <li>バックシャンプー</li> </ul>	18	シャンプー	<ul style="list-style-type: none"> <li>サイドシャンプー</li> <li>ホットタオル、タオルドライ</li> </ul>	6
ヘアカラー	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヘアカラーの分類</li> <li>酸化染毛剤が染まる仕組み</li> <li>髪質や生えグセによる塗布ムラを防ぐ</li> </ul>	12	ヘアカラー	<ul style="list-style-type: none"> <li>トーンアップ、トーンダウンでの薬剤チョイス</li> <li>グレーカラーの薬剤チョイス</li> <li>ホイルワークの基本テクニック</li> <li>「色」を覚えよう</li> </ul>	12
ドライ&ブロー	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドライ&amp;ハンドブロー</li> <li>ブローブラシの持ち方</li> <li>ワンレンボブのブロー</li> <li>レイヤーのブロー</li> </ul>	9	ドライ&ブロー	<ul style="list-style-type: none"> <li>パーマのブロー</li> <li>ロールブラシの使い方</li> <li>内巻きJカール</li> <li>くせ毛ブロー</li> <li>似合わせブロー</li> </ul>	9
パーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>液の基礎知識</li> <li>キレイに巻くためのコツ</li> <li>アシスタントに入る時のコツ</li> <li>基本の巻き方とカールの見え方</li> <li>デザインを左右する考え方のポイント</li> </ul>	21	パーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベーシックなメンズパーマのデザイン</li> <li>ベーシックなショート、ロングのパーマデザイン</li> </ul>	45
カット	<ul style="list-style-type: none"> <li>頭の骨格ポイント・ベーシックを正しくカットする ために知っておくべきこと</li> <li>平行ワンレングス</li> </ul>	30	カット	<ul style="list-style-type: none"> <li>サイドに段が入ったスタイル・バックに段が入ったスタイル</li> <li>ラウンドレイヤーとスクエアレイヤー</li> <li>横スライスでカットするショート</li> <li>ロングスタイルのバリエーション</li> </ul>	36
				<ul style="list-style-type: none"> <li>作品制作</li> </ul>	42
		90			150

テキスト
美容技術理論・美容実習・BASIC OF BASIC(女性モード社)

参考書・その他

<b>科目名</b>	<b>ネイルアート</b>	<b>総合美容コース</b>	<b>実技</b>
------------	---------------	----------------	-----------

<b>担当教員名</b>	<b>時間数</b>	<b>単位数</b>	<b>必修・選択</b>	<b>開講年次／回数</b>
佐野 右子	120時間	4	選択	1年 50分×60回
JNA本部常任講師・ネイルスクール経営				2年 50分×60回

<b>講義目的</b>
ネイルの基礎知識、理論、実技を身に付ける

<b>講義方法</b>
テキストを中心に実技形式で進める

<b>試験方法・成績評価方法</b>
日常の実技能力を中心に受講態度も含め評価

<b>授業内容</b>					
<b>1年次</b>			<b>2年次</b>		
回	主題	内容	回	主題	内容
1	オリエンテーション	・教材説明 ・検定説明 ・テーブルセット	1	春季ネイル	・検定練習(2級・1級)
2	基礎理論	・JNAテクニカルシステム座学 ・3級デモ説明 ・自分の爪をプッシュアップ(ニッパー)	2～8	1級アクリル練習	・1.2.3ボール ・1.ボールの形 フォームにフリーエッジを作る ・2ボール目、3ボール目につなぐ ・アクリル理論 ・ファイルから仕上げ ・相モデル
3	検定3級練習	・相モデルで通し練習 ・アート練習	9～15	1級スカルプ	・アプリケーション～ファイル ・アクリル・スカルプ ・チップ装着 ・アート (相モデル)
4					
5					
6					
7	検定2級に向けて	・手順、要項確認	16	1級検定練習	・相モデル通し練習
8	検定2級練習		17		
9			18		
10			19		
11	エアブラシ技術	・道具の扱い、作品作り	20	サロンワーク	・マシンの扱い ・ジェル ・エアブラシ ・マシーン ・エアブラシ ・3D ・作品作り
12	検定2級練習	・相モデルで通し練習	21		
13			22		
14			23		
15			24		
			25		
※1回の授業を3時間とする。					

<b>テキスト</b>
JNAテクニカルシステム(日本ネイリスト協会)

<b>参考書・その他</b>

<b>科目名</b>	<b>まつ毛エクステンション</b>	<b>総合美容コース</b>	<b>実技</b>
------------	--------------------	----------------	-----------

<b>担当教員名</b>	<b>時間数</b>	<b>単位数</b>	<b>必修・選択</b>	<b>開講年次／回数</b>
松 ほのか アイデザイナー	30時間	1	選択	2年 50分×30回

<b>講義目的</b>
美容師免許取得者だけが施術できる特殊な職業について、基礎知識・基礎技術を習得させる。危険が共なう技術のためフェイスウィッグでの授業を行う。

<b>講義方法</b>
教科書(美容技術理論2、美容実習2)とまつ毛エクステンションを中心に講義、実技形式で進める。

<b>試験方法・成績評価方法</b>
定期筆記、実技試験の点数を中心に、出席状況、授業態度も含め評価する。

<b>授業内容</b>		
回	主題	内容
1	導入	
2	まつ毛エクステンションとは まつ毛エクステンションの用具	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グルー</li> <li>・リムーバー</li> <li>・ツイーザー</li> <li>・実習(まつげエクステンションの装着、マネキン)</li> </ul>
3	衛生管理・保健	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目、まつ毛の構造</li> <li>・結膜炎、角膜炎</li> <li>・コンタクトレンズ</li> <li>・紫外線</li> <li>・眼精疲労</li> <li>・ドライアイ</li> <li>・実習(まつげエクステンションの装着、マネキン)</li> </ul>
4		
5		
6	まとめ	
7	衛生管理・保健	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まぶたの病気</li> <li>・逆さまつ毛</li> <li>・実習(まつげエクステンションの装着、マネキン)</li> </ul>
8	まとめテスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習(まつげエクステンションの装着、マネキン)</li> </ul>
9		
10	前期試験	

※1回の授業を3時間とする。

<b>テキスト</b>
美容技術理論2、美容実習2、まつ毛エクステンション(日本理容美容教育センター)

<b>参考書・その他</b>
オリジナルテキストを配布

<b>科目名</b>	<b>着付け</b>	<b>総合美容コース</b>	<b>実技</b>
------------	------------	----------------	-----------

<b>担当教員名</b>	<b>時間数</b>	<b>単位数</b>	<b>必修・選択</b>	<b>開講年次／回数</b>
中尾 房美 美容師	60時間	2	選択	1年 50分×30回
堂谷 陽子 美容師				2年 50分×30回

<b>講義目的</b>
古来よりわが国独特の着物、歴史、着付け技術を学ぶ。 技術だけでなく、目的や着こなし、バランス、季節の色彩の調和など総合的な美しさも学ぶ。

<b>講義方法</b>
講師によるデモンストレーション後、実技演習(相モデル)

<b>試験方法・成績評価方法</b>
定期実技試験の点数を中心に、出席状況、授業態度も含め評価する。

<b>授業内容</b>					
<b>1年次</b>			<b>2年次</b>		
回	主題	内容	回	主題	内容
1	浴衣について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識、歴史</li> <li>・腰紐の結び方</li> <li>・着物の名称(浴衣)</li> <li>・準備の仕方、量み方</li> <li>・下着の用い方</li> </ul>	1	振袖	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振袖の着付け</li> <li>・マナー</li> <li>・長襦袢の着せ方</li> <li>・帯結び</li> <li>・帯あげ</li> <li>・帯締め</li> </ul>
2	浴衣着付けの準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下着から小物</li> <li>・帯の準備</li> <li>・浴衣</li> </ul>	2		
3	浴衣の着付け、帯結び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12段返し貝の口</li> <li>・実習展示</li> <li>・体型補正</li> </ul>	3		
4	小紋の着付け、帯結び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小物の整え方～体型補正～長襦袢まで</li> <li>・小紋着付</li> <li>・名古屋帯三通り</li> <li>・小紋着付デモ～名古屋帯三通りデモ</li> <li>・仮紐三本使用の一重太鼓</li> <li>・帯あげ、帯締めの整え方</li> </ul>	4	留袖	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留袖の着付け</li> <li>・袋帯の二重太鼓</li> <li>・袋帯のたたみ方</li> </ul>
5			5		
6			6		
7			7		
8			8	中傳 実技・筆記テスト	査定
9	9	女子の袴			
10	初傳 実技・筆記テスト	査定	10	まとめ	
※1回の授業を3時間とし、1年次は初傳、2年次は中傳まで取得する。					

<b>テキスト</b>
美容技術理論2(日本理容美容教育センター) 山野流着装教室初中伝教本

<b>参考書・その他</b>

<b>科目名</b>	<b>エステ</b>	<b>総合美容コース</b>	<b>実技</b>
------------	------------	----------------	-----------

<b>担当教員名</b>	<b>時間数</b>	<b>単位数</b>	<b>必修・選択</b>	<b>開講年次／回数</b>
奥村 正美 エステティシャン・美容師	30時間	1	選択	2年 50分×30回

<b>講義目的</b>
トータルビューティーサロンが増加する中 美容の技術を幅広く習得し多岐にわたって技術を提供できるよう基礎知識・基礎技術(手技 機器 化粧品)の組み合わせを習得させる。

<b>講義方法</b>
教科書(美容技術理論2 美容実習2)を中心に講義 実技形式で進める。

<b>試験方法・成績評価方法</b>
実技試験の点数を中心に出席状況、授業態度も含め評価する。

<b>授業内容</b>		
回	主題	内容
1	エステティック備品類、フェイシャル及びデコルテマッサージ	・基礎1 クレンジング
2	フェイシャル及びデコルテマッサージ	・基礎2 クレンジング～ふき取り
3		・基礎3 マッサージオイル使用のデコルテ手順
4		・基礎4 顔全体～口輪部の軽擦法
5		・基礎5 顎～顔全体の軽擦法
6		・基礎6 スチームタオル
7		・基礎7 背中でのマッサージ
8		フェイシャルパックとマスク
9	カウンセリング	
10	応用テスト	
※1回の授業を3時間とし 10回目でカウンセリングと1～8の流れがスムーズに施術できるようテストする。		

<b>テキスト</b>
教科書(美容技術理論2 美容実習2)

<b>参考書・その他</b>
オリジナルテキストを配布